

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞

2025. 7. 22

JAL闘争を支える京都の会News No.118

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX: 075-531-3856 E-mail: komai123@kfa.biglobe.ne.jp

JALは安全よりも儲け第一の会社になってしまった！

2025年6月17日、大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ、「きょうとユニオン」、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」、「憲法を生かす京都の会」、「合同纖維労組」の皆さんなど、計10人にご参加いただきました。JAL客乗争議団から神瀬麻里子さんが参加されました。

神瀬さんは以下のように訴えました。「私は1977年に客室乗務員として日本航空に入社した。それ以来、JALの安全のために一生懸命働いてきたつもりであったが、突然15年前の大晦日、2010年12月31日に解雇になった。解雇になった理由を会社は過去の病歴だと言っていた。しかし、解雇撤回の裁判が進んでいくうちに本当の理由は労働組合つぶしだということがわかった。私たち解雇になったパイロット81名と



客室乗務員84名の合わせて165名は全員が乗務経験が20年、30年を超えるベテランであった。現場から経営に対してダメなものにはダメ、安全でないものには安全でないと言い続けてきた者が165名解雇になった。もっと儲けたい、そんな会社にとって労働組合はじゃまな存在だったのかもしれない。しかし皆さん、どの職場にも労働組合が必要である。一人一人の労働者の力は本当に小さい。その力を合わせて職場でこんなおかしなことが起きている、そして賃金を上げてほしい、パワハラ・セクハラをやめてほしい、職場環境を良くしてほしい、そんな声を一人一人上げていても、なかなかその声は通らない。そんな時のために憲法に労働組合が団結すること、そして闘争することの権利が書かれている。経営は労働組合から団体交渉を申し入れたら開かない

といけない。日本の法律で守られている。テレビではよくフランスや韓国で国民が外に出てデモやストライキをしている様子が映っている。日本でもかつてはそうであった。国鉄や私鉄がストライキで止まったときには小学生だった私は意味がわからなかったが、交通の労働者は利用者の命を守っている。何かあってからでは遅いから、ここを改善してくれというの



が労働組合の役目である。今、労働組合だけではなく日本中様々な問題が起きている。日産が2万人のリストラをすると聞いて私はひっくり返りそうになった。企業はどんどん大儲けしている時にも賃金を2倍や3倍には決してしてくれない。ピタ一文も増えない時もある。しかしなぜその責任を労働者に転嫁するのか。欠損を出したのは経営者ではないか。JALの経営も日産の経営も同じである。自分たちでは責任を取らず、その責任を労働者に押し付ける。それが大企業のやり方である。

日本は労働者の権利が本当に薄いと思う。人権がない。しかし、私たちは生きる権利が憲法で保障されている。ぜひ皆さん、あきらめないで声を上げていこうではないか。皆さん、平和についても声を上げていこうではないか。その権利が私たちにはある。

JALは稻盛さんが来てから安全より儲けと労働者に言う会社になってしまった。成田からタイのバンコクに向かうフライトの打ち合わせのときに機長が、『航路上に積乱雲があります。しかしその積乱雲は避けて通りませんので皆さん気をつけて仕事にあたってください。』という発言をしたそうである。なぜならその積乱雲をよけると20万円燃料費が余計にかかるからだそうである。皆さんそんな航空会社を選んで本当にいいのだろうか。安全が航空会社の至上命題である。ぜひ皆さん仲間がお配りしているチラシをお受け取りになり、日本航空の実態を知っていただきたい。新聞やテレビはなかなかこのことに触ってくれない。それはJALが大きなスポンサーで大金を支払っているからである。本当にこれは怖いことだと思う。マスコミは大きな事故が起きた時しか取り上げてくれない。私たち労働組合は今日の宣伝のように京都だけではなく全国で、このJALの不当解雇撤回を求める活動、そしてJALを安全にする、空の安全を守る活動を支援者の方たちと共に繰り広げている。ぜひ皆さん、私たちの声に耳を傾け、そして仲間がお配りしているチラシをお受け取りになりご支援とご協力を願いしたい。」と訴えました。きょうとユニオンのOさん、「京都の会」事務局長のKさんもJAL不当解雇撤回を訴えました。



次回 宣伝行動	(呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)
7月29日 (火)	午後2時~3時 伏見・大手筋商店街